

原発問題を学ぶ講演会

「巨大地震でも 原発は大丈夫？」

3号機の爆発
出典：NHK

能登半島地震では原発がある志賀町を震度7の烈震が襲った。もし通常運転をしていたら…

日時◎ 2024年 **3月31日** (日)

13:30～16:30 (開場 13:00)

場所◎ 鶴ヶ島市富士見市民センター (鶴ヶ島市富士見 5-11-1)

講師◎ **樋口英明** (元福井地裁裁判長)

「私が原発をとめた理由—本当は誰にでも分かる原発裁判」

柴崎直明 (福島大学共生システム理工学類教授)

「福島第一原発の放射能汚染水問題と海洋放出の現状」

福島第一原発を襲う津波(出典:東京電力)

参加費

1,000円

避難者・学生は500円

中学生以下は無料



福島第一原発 3号機原子炉建屋 (2011.3.15)
出典：東京電力ホールディングス株式会社

ここ数年の政府の急激な原発回帰への動きの中、昨年政府は数の力を武器に、GX推進法案とGX脱炭素電源法案を国会で成立させてしまいました。これにより、老朽化した原発も再稼働が可能となり、世界でも有数の変動帯である日本列島は、世界一危険な国になってしまったとも言えます。原発は運転することで放射性廃棄物が蓄積されていきますが、現在はその処分方法さえ確定していないのが現状です。2014年に大飯原発運転差し止め判決を下した、当時の裁判長であった講師に、日本の原発が如何に危険であるか、我々が今何をすべきかをお話ししていただきます。

一方、福島第一原発事故の発生から13年が経過した現在でも、汚染水問題は解決せずに廃炉の見通しも立たない状況の中、昨年政府は放射能汚染水の海洋放出という地元の声を無視した暴挙を開始しました。巨大地震により発生した被害の例として、地元で長年調査研究活動を行ってきた講師に、汚染水問題が解決できない理由は何なのか、汚染水の海洋放出の現状を含めて解説していただきます。

主催◎ 原発のない社会をめざす鶴ヶ島市民の会

協力◎ 応用地質研究会・地学団体研究会埼玉支部

問い合わせ先◎ 049-285-6244(石塚) / 090-7949-9351(青木)

詳細については裏面をご覧ください

プログラム

13:00 受付開始

13:30～14:50 講演① 樋口英明

「私が原発をとめた理由—本当は誰にでも分かる原発裁判」

14:50～15:00 休憩

15:00～16:00 講演② 柴崎直明

「福島第一原発の放射能汚染水問題と海洋放出の現状」

16:00～16:30 参加者からの質問・発言

鶴ヶ島富士見市民センターアクセスマップ



若葉駅東口発のつるワゴン(富士見・五味ヶ谷線)で10分
鶴ヶ島駅西口発のつるワゴン(富士見・五味ヶ谷線)で17分
TEL:049-287-1661



樋口英明

(元福井地裁裁判長)

「私が原発をとめた理由— 本当は誰にでも分かる原発裁判」

原発をとめなければならない理由はシンプルである。原発事故は極めて広範囲で深刻な被害をもたらす。それ故に原発には高度の安全性（事故発生確率が極めて低いこと）が求められる。地震大国日本において原発に高度の安全性が求められるということは、原発に高度の耐震性が求められるということにほかならない。しかし、我が国の原発の耐震性は極めて低い。よって、原発の運転は許されない。

【講師プロフィール】

1952年生まれ。三重県出身。京都大学法学部卒業。1983年任官。2014年5月21日福井地裁の裁判長として関西電力大飯原発3・4号機の運転差止めを命じる判決を下し、更に15年4月14日関西電力高浜原発3・4号機の再稼働差止めの仮処分決定を出した。2017年定年退官。著書に、「私が原発を止めた理由」、「南海トラフ巨大地震でも原発は大丈夫という人々」（共に旬報社）。



福島第一原発(事故前) 出典：福島県、原子力行政のあらまし

講演内容



柴崎直明

(福島大学共生システム理工学類教授)

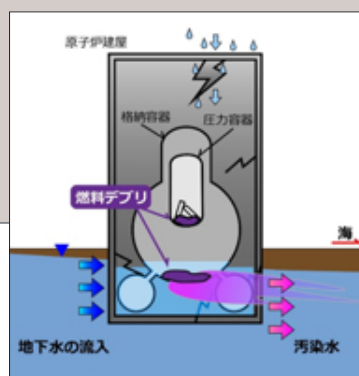
「福島第一原発の放射能汚染水 問題と海洋放出の現状」

原発事故から13年が経過しても、福島第一原発の汚染水は日々増え続けている。これまでに地下水バイパスや凍土壁などの対策が実施されたのに汚染水が増え続けている原因を地質・地下水の専門的立場から解説する。汚染水がこれ以上増えなければ海洋放出する必要はないという立場から、建屋への地下水流入量を抜本的に削減する対策案を紹介する。さらに、2023年8月から強行された海洋放出の問題点を指摘し、海洋放出の現状と課題についても解説する

【講師プロフィール】

1960年生まれ。熊本県出身、1966年鶴ヶ島村へ。同年4月に鶴ヶ島町つくし幼稚園に第1期生として入園。鶴ヶ島市で育つ。県立川越高校・信州大学理学部地質学科卒業。1983年に国際航業(株)地質調査事業部に入社。インド国立地球物理学研究所などを経て、2004年より福島大学共生システム理工学類教授、現在に至る。博士(理学)。技術士(応

用理学)。福島県廃炉安全監視協議会専門委員(水文地質学)、福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ代表。



汚染水発生のおしきり
出典：地団研ブックレット16